

平成22年度 取組目標 前期評価

1. 校務分掌（その1）

分掌名	目 標	実 践 目 標	評価	前期の反省・課題
教 務	教育課程の見直しと読書習慣の定着による生徒の基礎学力向上。 また、積極的な情報公開を行う。	① 教育課程の見直し	3	①については、新学習指導要領に合わせた選択科目やクラス編成を検討しながら、学習指導委員会などとおして教育課程の全面的な見直しを行っている。 ②については、図書館だよりの発行により、生徒へ新刊の本を紹介した。また、学級文庫を各クラスの図書委員が選ぶことにより、読みたい本を提供できるようにしている。 ③については、最新の情報を提供できなかったことが反省点である。分かりやすいHPへの改良も含めて改善していきたい。
		② 読書習慣の定着	3	
		③ 情報公開	2	
研 究 企 画	授業研究と学校会議の取り組みを通して、生徒が学校生活により積極的に取り組めるような方途を検討し、実践することで、学校の活性化に寄与する	① 「生徒に参加させる授業」を実現させる。	3	①1学期には各チームでクラスの状況や問題点を把握し、問題解決のための方法を検討していただいた。一部計画の遅れもあったが、学習アンケートや授業観察の奨励などで、よりの確な改善策の設定に寄与できたと思われる。 ②第1回学校会議は事務局提案議題によるフォーラムという形で実施することになった。当初の計画とは異なるが、生徒からもよい意見を聞くことができ、フォーラムの具体像も見えてきた。
		② よりよい学校づくりに貢献できるよう、新しい形式での学校会議を的確に運営する。	3	
進 路 指 導	進路意識の高揚 希望進路の実現	① 進路ガイダンス ・キャリアガイダンスの充実	3	担任・各学科が中心ではあるが、複数教員による面接指導ができたと思うが、今年度は非常に厳しい結果が返ってきている。原稿の棒読みのような面接ではだめで、きちんと対応できる生徒しか内定はもらえないのが現実である。今後は、就職再応募者はもちろんのこと、進学希望者に対する面接指導にも力を入れる必要がある。 3年生に対してのガイダンスはある程度充実できたように思う。これからは1・2年生に対して、現実の厳しさを機会を作って伝え、より一層生徒の意識を高めさせたいと考えている。
		② 進路LHRの充実	2	
		③ 面接指導を十分に行う	3	
生 徒 指 導	◎ 昨年度まで実践してきた『生徒が安全で・安心して学べる学校づくり』『地域の人々から信頼される学校づくり』を大前提にすることに変わりはない。 ◎ 女子教育の推進により、本校が考える女性らしさの追求を目指すとともに、特に出会い系などにより、女子生徒が被害者にならないように努める。 ◎ 他人を、肉体的にも精神的にも、傷つけることは決して許されない。道徳教育の推進により『人としての心を育む』ことに邁進する。	① 基本的な生活習慣（4本柱）の継続・堅持	3	全般的な視野で見ると、大きなトラブルもなく、生徒はまずまず安心して落ち着いた環境の中で学校生活を送っていたと感じた。 中でも今年度の柱の一つである女子教育の推進において、初めて茶道教室を実施してみたが、女子生徒にはかなり好評であり、茶道という体験学習を通じて『和敬清寂』を中心に相当意識付けが出来たのではないだろうか。 まだまだ服装や髪型面で、安心してしるほど完璧ではないだけに、今後も粘り強く、真剣に取り組んでいかなければならない。
		② 女子教育の推進	4	
		③ 従来型いじめ及びネットいじめの防止	3	
人権・同和教育	生徒・教職員・保護者の人権についての知的理解を深め、人権感覚を高める。	① 生徒の人権への知的理解と人権感覚の高揚	3	人権・同和教育ホームルームは、例年より少しは精選できたが十分ではない。生徒向け人権だよりは予定通り発行できている。教科における人権教育については掌握できていない。 現地研修（辛立）や研究会（四人研）に多くの教職員が参加することができた。教職員向け人権だよりは予定通り発行できている。 PTA総会では参加保護者に向けて講話を行った。第一学期の保護者向け人権だよりは予定通り発行することができた。研究会（四人研）にはPTA役員が参加した。
		② 教職員の人権への知的理解と人権感覚の高揚	3	
		③ 保護者の人権への知的理解と人権感覚の高揚	3	
特 別 活 動	部活動や生徒会活動、ホームルーム活動を通して、「仲間と協力して主体的により良い生活や人間関係を築こうとする気持ちと力」及び「集団への所属感や公共の精神」を育てる。	① より多くの生徒が部活動や生徒会活動に参加し、充実した学校生活を過ごせるようにする。	2	顧問の指導により、部活動自体は活性化してきている。担任との連携については、まだできていないので、早急に計画し、実施する。 生徒会新聞を立ち上げ、広報活動は充実できている。
		② 学校会議LHR、及び生徒理事会で活発な議論がなされるような状況を作り出す。	4	
教 育 相 談	個別支援の充実	① SCの活用	4	①1年生全員に対して、SCによる集団面接で相談室を印象づけることができた。2学期以降、相談部による個人面接で、2年生全員に相談部の存在を意識づけていきたい。 ②個別の面談等で適切な具体的助言がなされるため、生徒や教職員からの相談が多く、SCの活用は十二分になされている。 ③SCを交えての相談部会を月に1回のペースで持つようにした。そこでの情報交換により、生徒の状況を共有できるようにしている。対応策も検討し、学年団会議等で情報の共有を図り、いつでも連携ある対応がとれる体制になっている。
		② 生徒理解を深める	2	
		③ 連携を図る	3	

校務分掌(その2)

分掌名	目 標	実 践 目 標	評価	前期の反省・課題
保 健	生徒や職員の健康に配慮し、元気のある学校づくりを目指す	① 自ら（巣立つ世代）の身体に、関心と責任を持たせる	3	①自立に向けての「バランスのよい食生活」の講話や、「食生活について」のアンケートなどで、自らの健康について考える機会を設けることができた。また、志度高祭でも資料を展示し、健康についてさらに関心を深めさせたい。 ②メンタルヘルス相談・健康相談、子育て支援やセクハラ防止の委員会、スポーツレクやお菓子作りなどで、交流の場を設けることができた。
		② 職員の体力・健康維持に努める	4	
総 務	快適な学習環境を作れるよう、生徒一人ひとりの意識を高める。 学校に対する愛着心（愛校心）を育てる。	① 公共物を大切にすることを高める。	3	校内で物が壊れることは少なくなっているが、自分で修理して使用するまでの意識はない。 清掃用具の管理はほとんど問題なくできているように思われる。 PTA総会では興味や関心を高める工夫が見られたが、今後の活性化につながっていくかどうかはまだわからない。
		② 清掃用具の整備	3	
		③ 保護者とのコミュニケーションを密にする。	3	

2. 学科

学 科 名	目 標	実 践 目 標	評価	前期の反省・課題
商 業	専門高校としての特色を出し、社会人、大学生として恥ずかしくない人材を育てる	① ビジネスマナーの向上	4	社会人講師を招聘しビジネスマナー講習会（3年生2回、2年生1回）を開いたことや、教員が日常的に服装・挨拶等の指導を行ったことにより、生徒のビジネスマナーは着実に向上している。 検定合格率については、一斉課外や特別指導の効果もあり、昨年度並みに高い。また、専門学校を積極的に活用した効果もあり、6月の日商簿記検定では4名の2級合格者を出すことができた。 進路については、現在のところ就職者の合格率が低い状況である。生徒の希望する進路が実現できるよう、職員全員で面接指導や小論文指導及び進路相談に積極的に関わっていききたい。
		② 検定合格率の向上と高度資格の取得	4	
		③ 進学率の向上と進学先や就職先の充実	3	
電 子 機 械	基礎・基本を身に付けさせ、検定・資格取得や技術・技能の向上に積極的に取り組む生徒の育成	① 基礎基本の充実	3	実習開始時の集まりに遅れる生徒も減り、実習服の忘れ等なくなり昨年に比べ大変良くなっている。 技能検定試験などに取り組む生徒も多くなり、合格者も確実に増えている。 実習時、ものづくりを通して、基礎基本ができるようになってきた。
		② 検定・資格取得の向上	4	
		③ ものづくりの技術・技能の向上	3	
情 報 科 学	高校生として社会に対応できる人間教育を行う	① 生活習慣の基本を身につける	3	生活習慣については、提出物を遅れて出す者が数名いた。 資格・検定では、今年より2年の希望者に情報処理技能検定(表計算)を実施して14名中8人合格、その他の検定でも昨年より合格率が向上した。 就職に関しては、早期に企業訪問できたが、まだまだ情報系の企業が少なく電気系も含めて幅広く開拓したい。大学進学は国公立・県外の難関私学を受験できる生徒を多く来年は育てていきたい。
		② 資格・検定等の意欲の向上	4	
		③ 就職・進学への幅を広げる	3	

3. 学年団

学 年 団	目 標	実 践 目 標	評価	前期の反省・課題
3 年 団	生徒の進路の実現	① 礼儀・言葉遣いの徹底	3	①毎日のSHRでの挨拶・礼などの指導についてはできていると思われる。今後とも指導を継続していきたい。 ②面接指導は、先生方の協力のおかげで指導できているが、就職試験などの面接試験に上手くリンクできたかどうかはわからない。 ③これから指導していく。
		② 面接指導の徹底	3	
		③ 進路決定後の生活指導の徹底		
2 年 団	(1) 人間教育	① 挨拶、時間厳守、服装、清掃	4	人間教育については、昨年度から引き続き実施している。①についてはほぼ全員が出来ているが②については、正直なところHR教室の巡回があまり出来ていないので、後期には計画を立てて実施したい。 進路については、LHRなどを活用し、求人票の見方や履歴書の書き方などを体験させることが出来た。また、小論文模試の受験人数が昨年よりも大幅に増えたり、短大や専門学校へのオープンキャンパスも、夏休み等を利用して参加する者が出てきたということは今後も期待が持てる要素である。
		② いじめを許さない	2	
	(2) 進路意識の高揚	③ 資格検定の取得	3	
		④ LHRの有効活用	3	
		⑤ 各種模試の積極的受験	4	
		⑥ オープンキャンパスへの参加	4	
1 年 団	高校生としての必要な人間教育	① 挨拶、時間厳守、服装、清掃	3	① 入学当初は、ほぼ全員が守れていたが時間がたつにつれて服装・時間厳守等に於いて一部の生徒が守れていなかった。 ② 全体を見ても、コミュニケーションについては良かった。 ③ 入学当初は、ほぼ全員が守れていたが時間がたつにつれて提出物や授業態度・授業準備等が守れていない生徒が増えて来た。 ①③について、目標が達成できなかったものについて、学年団全員で指導したい。 ②については今以上に指導したい。
		② 円滑なコミュニケーション	4	
		③ 授業規律の確立	3	